

研修では、大変お世話になり、ありがとうございました。2日間という限られた時間でしたが、有意義な研修になり、感謝しております。

今回の訪問には、3つの大きな目的がありました。いずれも、十分達成できたと感じています。

1. ICT を利用した効率的な情報共有・多職種連携、仕事の分担

メール（メーリングリスト）で、患者情報を共有し、カルテ記載や紹介状作成なども、そうした記録に基づいて行っている形態は、情報共有・連携にも、仕事の効率性にも、有用性が高いものであり、ぜひとも真似たいと思います。

そして、情報共有を、決してメールのみに頼っているわけではなく、直接看護師や事務など、周囲のスタッフと顔を合わせて、カンファランスも1日2回行ってディスカッションをしているので、顔の見える直接のコミュニケーションも取れていました。

メールとカンファランスを両輪として、連携を取っているバランスを学びました。

2. 中野先生の在宅医療への思い

中野先生の在宅医療への思いは、地域あるいは日本社会への思いでもあり、自身の診療所経営・診療所患者のみを視点としたものでないことを、強く感じます。社会活動や情報発信を積極的にやられている理念に直接触れ、共感することが多く、また私にも激励をいただき、大きな刺激になりました。

3. 中野先生の時間のマネジメント

忙しい中でもパフォーマンスを上げるための工夫を多々されていました。研修に行く前には、多忙な中に、たくさんの仕事をこなしている姿に、超人的な処理能力があるかもしれないと、正直怯えていました。しかし、実際にはそうではなく（睡眠時間・休養も十分に取られており）、工夫で乗り越えていると知り、ややホッとした反面、自分にも同じようにできるか不安も感じました。ちょっと空いたわずかな時間も無駄にせず動かれているところを、見習っていきます。

こうした工夫は、全て、医療の社会的責任（在宅医療・地域発展への思い）を実践するために、少しでも効率的に動こうとしているというのが根本にあると感じました。結局は、ICT を利用することも、時間のマネジメントを行うことも、行動の理念は同じところなのですね。地域にシステムを作り、それがモデルとなれば、他の地域に拡げていきたいという思いで、私たち研修者を快く引き受けて下さるのも、そうしたことからだろうと感じます。それらの姿勢も見習っていきます。

中野先生をはじめ、スタッフの皆さまには、お忙しい中、お手間をかけてしまい、恐縮しておりますが、私にとって、本当に学びの大きい研修でした。また、楽しかったです。そして、多くの刺激を受け、頑張っていきたいと気持ちを新たにしました。必ず、今後の診療や社会活動に活かしていきますことをお誓いします。

しばらく経ったら、また刺激を受けたり、自己点検をしたりするために訪れたいです。ありがとうございました。

医療法人アスムス　生きいき診療所・ゆうき
医師　荒井　康之